

**就労中の2型糖尿病患者の
生活調整を支える看護の視点
ー コントロール不良状態が持続している
通院患者への看護過程の分析 ー**

脇坂 幸江（応用看護学）

【キーワード】 就労中・2型糖尿病・通院治療・
コントロール不良・生活調整

本研究の目的は、就労中の2型糖尿病患者の生活調整を支えるための看護の視点を得ることである。研究対象は外来で自身が継続的に関わっている患者への看護過程である。研究方法は、通常勤務中に意図的に関わり、その内容をフィールドノートに記述した。その中から、就労中の患者の生活調整を支えるうえで重要と思われる場面3事例14場面をプロセスレコードに再構成し研究素材とした。各場面を患者の言動の変化に着目して局面に分け、その関わりの意味を取り出した。取り出された局面の意味から看護者の認識と表現の特徴74項目を抽出した。さらに74項目の特徴について共通性と相異性を検討し類型化した結果、就労中の2型糖尿病患者の生活調整を支える看護の視点を7項目抽出した。

1. 良い情報や結果を見出して関わりを始め、患者が快い気持ちになるように配慮して患者の感情や思いの表出を促し、良好な患者－看護師関係をつくり出す。
2. 仕事と疾病コントロールの両立の難しさに共感し、患者自ら個別な生活のあり様を語れるように働きかけ、生活調整するうえで抱えている問題を共有する。
3. 24時間の個別な生活のあり様を想起し、患者のできる範囲で調整できそうな方策を患者と共に考え、患者ができてそうな調整方法を支持し遂行できるように支援する。
4. コントロールに繋がる生活行動の変化が見られた時は、些細なことであっても患者の努力だと認め、

自己効力感が高まるように働きかける。

5. 家族の立場に立ち患者の健康を案ずる気持ちを代弁して伝え、家庭や職場の中での社会的役割を遂行できていることを感じられるように働きかける。
6. 時間的ゆとりのない患者の状況を配慮し、検査データや病気への関心が高まるように働きかけ、患者が関心を示した時には機会を逃さず要点を押さえ、短時間で具体的に身体と繋げてイメージできるように伝える。
7. 就労の条件によって生活調整に支障が出ることを予測し、前もって対処する方法を互いに考え、治療が継続できるように支える。